

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

飯田市

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	林業技術支援事業
事業費		814,000 円 (うち支援金: 814,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題: 当市においても生活面での石油エネルギーへの依存により、森林資源との関係が薄くなってきており、身近にありながら森林とのかかわりが少なくなって来ている。仕事としての林業実務者も不足しているが自分の山や財産区など自らの手で作業を行う担い手も不足している。

(2) 本事業の目的: 「いいだ森林学校」を開校し広く市民が森林づくりに参加できる機会を増やすことで、森に親しみ、地域の魅力を感じてもらい、さらには林業の担い手づくりや人材育成につなげていく。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 飯田市内の山林

(2) 対象者 市民 (全年齢)

(3) 実施方法 各種講座を開催し、作業・見学など行うことで林業や森林に触れ合い、関心を持ってもらう。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~令和 4 年度) 参加目標数 500 人 今年度参加者: 62 人

②令和 2 年度実績 各種安全講座の開催数 2 回

林業現場、製材工場などの見学会 1 回 各種体験講座 4 回



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・各講座を通じて、山での作業を安全に自らの手でおこなえるようにし山の手入れや山林資源の活用などに役立てていく。
- ・林業や製材工場などの現場を見学できる機会を作ることで林業の担い手を増やすきっかけづくりとする。

(2) 継続性

- ・山委員や財産区の委員など地域の山の関係者は、毎年のように変わっていくため、継続的に事業を行うことにより作業を行える市民を増やしていく。
- ・就学者を中心に林業現場を見学してもらうことにより将来の担い手を増やすきっかけづくりとする。

(3) 普及性

- ・山の手入れを自らの手でおこなえる市民が増加することにより、身近の山が整備されていく。このことにより、荒れた山が少なくなれば効果が感じていくことができる。
- ・森林産業の担い手となる若い世代に働きかけることにより、就業人口が増加すれば県内産業も活発化する。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

チェーンソーや刈り払い機の安全使用講座には、財産区役員や生産森林組合をはじめとして地域の担い手の方々を中心に参加があった。また、林業体験ツアーでは、普段見られない林業の現場の作業や木材加工場の見学を通して、多くの方に地域材の利活用に興味を持っていただくことができた。各種体験講座は、木や森林に興味を持っていただく講座として大変好評であった。

(2) 課題

山林所有者や財産区役員など山に関わる市民は、まだまだいるので、その方々に自らの力で管理することや安全に作業を行うためのスキルをつける講座は必要。次年度は、搬出の講座も行い利活用についての講座を充実したい。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

担い手の発掘や若い世代への山林への理解、地域産材の利活用講座を行いたい。

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

飯田市

No.	事業項目	事業名
2	みんなの暮らしを守る森林づくり	地域課題となっている集落の森林づくり事業
事業費 616,000 円 (うち支援金: 616,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

集落内にある森林においては、長年の手入れ不足により、家屋や道路、特に遊歩道や児童・生徒の通学路等への倒木の恐れのある危険木(巨木等)が増えている。その中でも特に巨木化したヒノキやスギは、植栽当時と付近の家屋の立地状況や道路状況が変化する中で、倒木の危険性が増してきていることに加え、伐倒作業の困難性も増してきており、その立木の処理が地域では大きな課題となっている。また、うっそうとした暗い森林(竹林)は、地域住民との関わりを遠ざけているとともに、地域の良い景観を阻害している。

里山の山林が荒廃してきたため、景観の悪化や山地災害への懸念が増しており、森林の景観整備や防災機能強化への地域要望が強まっている。

(2) 本事業の目的

生活や景観の支障となっているヒノキやスギの針葉樹の一部を、抜き伐るとともに、良好な森林景観のために必要に応じて枝払いを実施することで、市民が寄り付きやすい森林としてモデル的に整備し、これから先、森と地域が関わっていけるようきっかけづくりを目的とする。

山林を整備し見通しを良くすることで、森林景観の向上や、山地災害防止機能の向上、ひいては野生鳥獣による農作物などへ被害を抑制する効果の向上を目的とする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 飯田市龍江(天竜峡)地区、飯田市上郷地区

(2) 対象者 地域から要望の強い危険木の多い森林や鳥獣の潜む場所となる森林

(3) 実施方法 生活や景観の支障となっている針葉樹を中心に、道路等に倒れ込まないように保持しながら、かつ制限林の要件に合致する範囲内で伐採を行う。また、うっそうと暗い森林を対象にモデル的に枝払いや下層木除去および、玉切り整理を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~令和 4 年度) 約 1 ha × 5 年間 = 約 5 ha

②令和 2 年度実績 0.9ha



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

集落内の森林をモデル的に整備することにより、課題となっている危険木の除去と併せて、市民の皆さんが針広混交林等の良好な森林環境を身近なところで学習できる場が生まれる。

(2) 継続性

地域住民にとって、あるいは観光客にとって、見て楽しめる森となる。また、様々な樹種等を学習できる森として継続的に活用できる。

(3) 普及性

集落内の森であることから、地域住民が身近な森としてみることができ、同様の課題を持っている他地区にも紹介することができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

実施箇所は地域住民の目に触れることが多い箇所であり、成果を受け今後の森林整備・活用等に関心を持ってもらうことが期待できる。

(2) 課題

森林整備に関心を持ち、自らが作業していくことへの支援ができるよう検討していく。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

他の補助事業も検討し必要箇所の検討を進めていきたい。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

飯田市

No.	事業項目	事業名
3	木を活かした力強い産業づくり	地元産材普及啓発事業
事業費 1,986,600 円 (うち支援金: 1,985,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当市においては、森林資源に恵まれていながら、身の周りの多くはプラスチック・金属等の工業製品が生活のほとんどを占め、さらに、身近な森林との係わりが希薄になってきている。

(2) 本事業の目的

地域材に親しむことのできる環境・機会をつくることで、今一度、地域材の素晴らしさ・温もりを実感してもらい、今後、家庭でも木製品をより多く取り入れてくれることを目指し、地域の木材産業の活性化につなげていく。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市民課及び保健課窓口等

(2) 対象者 婚姻届及び出生届出者や市に住所を有する幼児(4か月児検診時)

(3) 実施方法 飯田・下伊那産材で製作した記念品を製作。婚姻届、出生届出時または4か月児検診時に贈呈する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成30～令和4年度)

地元産材木製記念品 178個×5年間=890個

地元産材木製スプーン配布目標数 1,000本×5年間=5,000本

②令和2年度実績 地元産材木製記念品 100セット 300個

地元産材木製スプーン 1,200本



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・子どもが育つ環境に木製品を取り入れていくことは、子どもだけでなく大人にも木の良さや魅力を認識していくことにつながっていく。
- ・地元産の材、間伐材を使うことで森林を身近に感じてもらい、林業産業の活性化につなげていく。

(2) 継続性

- ・森林・地域材に親しむことのできる環境・機会を継続していくことは将来的に森林整備、森林産業の担い手など林産業の活性化が望める。
- ・木製品及び木質化に対する関心、特に地元産材に対する関心が高まり、森のサイクルの「使う」が進むきっかけとする。

(3) 普及性

- ・木製品の良さや魅力を知ることにより、スプーンなどの小物から施設等の木質化など木質の魅力を活かした活用がふえていく。併せて、チラシを同封し地元産材と森林税活用事業をPRする。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

婚姻、出生などのお祝い事の届出時等に、ぬくもりが感じられる地元産材を活用した記念品を渡すことで、森林・木材・地元産材に関心を持つ一助となった。

(2) 課題

今年度は、木製スプーンと記念品がコースターとなったが、記念品として喜んでもらえるものの検討を更に進めていきたい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

記念品の内容について業者や関係機関と検討を重ね、地元産材のPRとなるよう努めた。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

飯田市

No.	事業項目	事業名
4	みんなの暮らしを守る森林づくり	地域で実施する竹林整備への支援事業
事業費		166,451 円 (うち支援金: 165,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

集落周辺の里山において、放置された竹林の拡大により人工林や天然林が抑圧されると共に、多様な自然環境も失われている。このため地域住民によって自主的に竹林の整理を行う際の支援として、破砕機を貸し出す。

(2) 本事業の目的

地域住民によって自主的に竹林整備を実施する際、整備後の竹林管理をしやすい環境作りと地域の景観が損なわれないことを目的に、破砕機を貸出して伐採竹をチップ化する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 飯田市内の要望のある放置竹林

(2) 対象者 地域活動を行う市民

(3) 実施方法 地域活動として実施する竹林整備に対して、地域から破砕の要望がある場合に市で所有する竹の破砕機を貸し出す。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 地域要望に対応し、年 5 箇所程度×5 年間=25 箇所程度
・支援金の活用は、破砕機維持管理費 (消耗品・修繕費等) と作業時の消耗品等。

②令和 2 年度実績 5 箇所



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

竹林整備は伐採したまま整理をしないと林内に入れず、その後の管理が難しくなる。チップ化することで林内にも入りやすくなり、景観的にも良好となる。

(2) 継続性

チップ化された竹はたい肥として活用し、竹林も地域で管理しやすい環境となるため、タケノコの収穫も期待できる。

(3) 普及性

道路脇の竹林が課題となっている地区が多いので、実施した箇所が他地区の住民も容易に目にする場所であるため、そのまま宣伝効果が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

例年と比べて実施箇所は5箇所と多くなり、多様な主体と連携した事業実施が出来た。

(2) 課題

いくつかの要望もあったが、個人利用であり現在の当市破砕機貸出規定からは外れてしまう。今後は、そのあたりも他機関と協議・連携して課題解決に向けた検討を進めたい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

竹林整備に対する地域からの要望は多く、更に地域に働きかけ実施していきたい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)